

H22年度 県庁舎基本構想ワーキンググループ提言概要

平成23年4月15日
県庁舎基本構想WG

○活動内容

昨年度のワーキンググループでは、新しい庁舎に職員の知的生産性を高め、県民協働をすすめるものについてモデル的に提案しました。

新庁舎は、県民の安全・安心を守る防災拠点としての機能が当然求められますが、庁舎の建設は、県民ニーズにより応えることができる「理想の働き方」を実現する環境をつくることのできるチャンスです。

このため、平成22年度のワーキンググループでは「理想の働き方を実現するためのオフィス」について考え、まず「理想の働き方とは何か」を職員の成功要因や失敗要因から整理しました。そして、「理想の働き方を実現するための場（空間・機器・組織）」について、様々なアイデアを出しました。

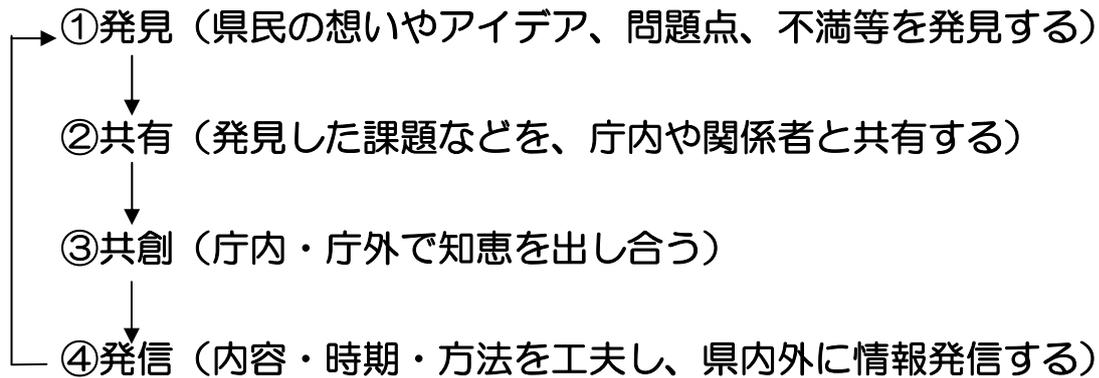
今回の活動が「理想の働き方を実現するための場」を設計する手助けとなるとともに、県職員自身が、理想の働き方について考え、実現していくための契機となることを目指しました。

○提言の概要

1. これからの長崎県庁

- ・ 国のカタチが中央主権型から地域主権型へ変わりつつある中で、これからの長崎県は県や市・町だけでなく、県民みんなでこれからの長崎県について考え、知恵を絞らなければなりません。そのためにはまず、県庁自身が働き方を変えなければなりません。
- ・ そこで「県庁の理想の働き方とはどのようなものか」をこれまでの成功要因・失敗要因から洗い出しました。すると①発見、②共有、③共創、④発信の4つのキーワードが見えてきました。長崎県職員の成功事例、失敗事例から生まれたこの4つのプロセスを「長崎モデル（Nモデル）」と名付けました。

「長崎モデル（Nモデル）」



+マインド（非効率な制度や決まりを見直す意識）

- ・ 「Nモデル」をより生かすには、担当課だけでなく関係課や市町、県民との横の連携を生かす「組織横断型」、ニーズに応じて組織の枠を越えて必要なメンバーが集まる「プロジェクト型」の働き方も必要になります。

2. N行動とアイデア

「Nモデル（①発見、②共有、③共創、④発信）」を実現するための「ツール、スタイル、スペース」を具体的にイメージするための手助けとして、個々の行動に関するアイデアを例示的に考えてみました。（具体的なアイデアは concept book を参照下さい）

<Nモデルを実現するための23の行動>

① 発見

1. 県民の声を集める（様々な方法で県民から意見や要望を集めるもの）
2. 県民を呼び込む（県民から自発的に参加できるきっかけを作るもの）
3. 直接出向く（現場に出向き、生の声を聞いて現状を知るもの）
4. 庁内を歩く（庁内を歩き回り、人やモノに接することでアイデアをためるもの）
5. 気分を変えてみる（環境を変えることで新たな発想を得るもの）
6. 出会う（通常の業務では関わりのない人と出会うもの）

②共有

1. こまめに報告・連絡する（お互いの状況を知ること出来るもの）
2. 悩みを打ちあける（色々な人からアドバイスをもらうもの）
3. 気軽に話してみる（頭の中のモヤモヤを口にする事で考えがまとまるもの）
4. 見える化する（見えない情報を可視化することで人の繋がりを支援するもの）
5. データを共有する（いつでも誰でも気軽にデータにアクセスできるもの）

③共創

1. メンバーとすぐ話せる（必要な人がすぐ近くにいるもの）
2. ワークショップをする（楽しみながらみんなで考えるもの）
3. 議論を重ねる（納得するまで徹底的に議論するもの）
4. どことでも繋がる（遠隔地の人ともコラボレーションするもの）
5. プロジェクトマネジメントする（確認しながら進めるもの）
6. プロジェクト化を支援する（プロジェクトを円滑に進める支援をするもの）

④発信

1. リアルタイムで届ける（県民が常に最新の情報を取得できるもの）
2. 興味を持ってもらう（新しい発信方法で県庁を知ってもらうもの）
3. 県民も参加する（県庁を身近に感じてもらうもの）

Nマインド

1. 県民目線になる（県民が本当に必要だと感じていることをやるもの）
2. 積極的に取り組む（視野を広げるもの）
3. モチベーションを上げる（職員のチャレンジ精神を支援するもの）

3. シナリオプランニング

望ましい働き方を具体的にイメージするため、「組織横断型」・「プロジェクト型」の具体的なアイデアをシナリオで表現しました。

詳細は concept book を参照下さい